

これまでの取組

- 市は、「調布市都市計画マスタープラン（平成26年9月改定）」の将来都市構造で「中心市街地」を位置付けています。
- また、京王線連続立体交差事業と一体となったまちづくりを推進し、将来にわたって快適に住み続けられるまちの形成を目指し、まちづくりを計画的、総合的に進めるための基本となる計画として、「中心市街地街づくり総合計画（平成12年3月）」を策定しました。
- この計画では、まちづくりの熟度や時間的要素等を十分考慮し、弾力的・段階的にまちづくりを進める整備の考え方を示しており、まちづくりの整備期間の目標を20年間とし、4段階に区分しています。
- 現在は、京王線の地下化や市街地再開発事業完了など、整備事業に着手し、地区全体のまちづくりを完成させていく段階となっています。

段階整備の考え方

第1段階 調査・計画策定及び都市計画決定の段階

- ・京王線連立事業に先行して都市計画決定した面的整備事業の実施
- ・京王線連立事業及びこれと同時期に実施すべき事業の都市計画決定
- ・合意形成が図られた面的整備事業や都市基盤整備事業の基本計画等の作成

第2段階 先導的整備事業の事業着手の段階

- ・第1段階で都市計画決定を行った事業の着手
- ・合意形成が図られた面的整備事業の都市計画決定等
- ・優先順位の高い事業の着手

第3段階 地域全体にまちづくりを波及させていく段階

- ・先行した整備事業の効果を受け、地元の合意が整った地区から順次面的整備事業の都市計画決定
- ・都市基盤及び建築物の共同化・協調化等の事業の地区全体への展開

第4段階 まちづくりを完成させていく段階

- ・整備事業すべてに着手し、地区全体のまちづくりを完成させていく段階

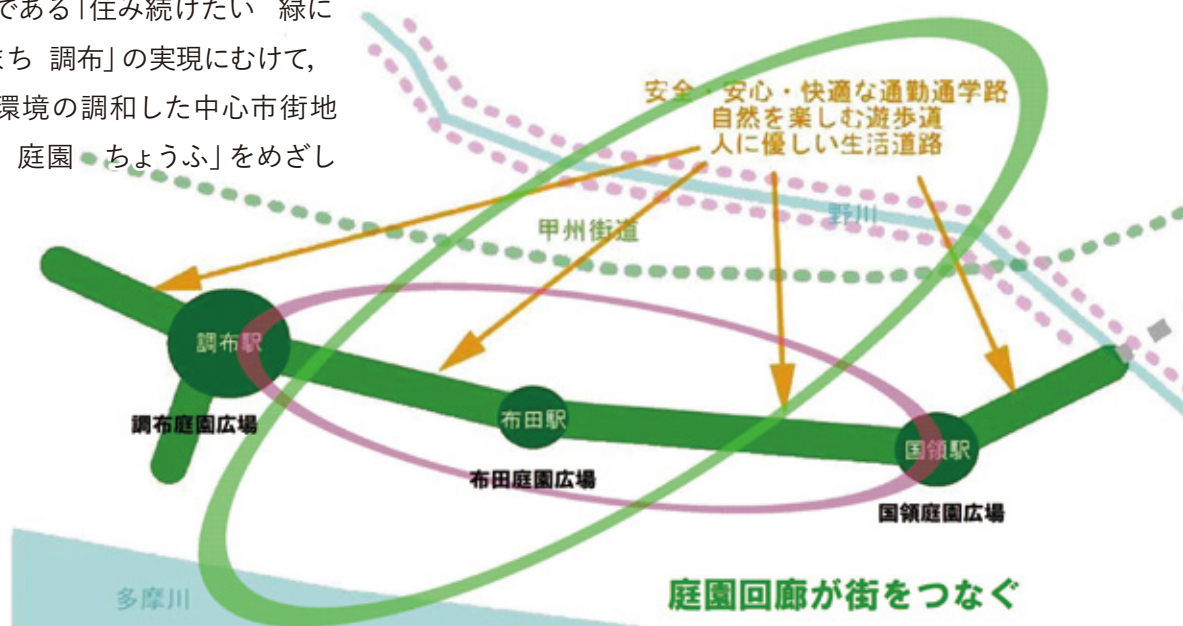
10年間

10年間

出典：「中心市街地街づくり総合計画（平成12年3月）調布市」

中心市街地デザインコンセプト（2009年7月）

- 将来都市像である「住み続けたい 緑に つつまれるまち 調布」の実現にむけて、にぎわいと環境の調和した中心市街地「にぎわい 庭園・ちょうふ」をめざします。



目指すまちの姿

- 平成24年8月、京王線連続立体交差事業によって、京王線の柴崎駅～西調布駅間の約2.8kmと、相模原線の調布駅～京王多摩川駅間の約0.9kmの地下化が実現しました。これにより、交通渋滞の解消、歩行者・自転車の安全性の向上、分断されていた市街地の一体化、鉄道敷地の有効活用など、調布市のまちづくりは、目に見える形で躍動的に進展しています。
- 調布市基本計画では、計画期間内（令和元（2019）年度～令和4（2022）年度）に特に重点的に取り組むべき主要事業について、優先性を踏まえた選択と集中の観点から重点プロジェクトとして位置付けています。利便性と快適性を兼ね備えた、にぎわいと交流のある都市空間の創出、様々な都市機能の集積により、魅力ある市街地の形成が図られています。

重点プロジェクト 4

にぎわいと交流のある活気に満ちたまちをつくるプロジェクト
● 重点プロジェクト事業 ●

まちの活力を生み出す都市をつくる

- 駅前広場の整備
- 鉄道敷地の整備
- 中心市街地における区画道路等の整備
- 道路網計画に基づく計画的な道路ネットワークの形成
- 自転車等駐車場の整備・有料化

にぎわい・交流のあるまちをつくる

- 商店街活性化の推進
- 中小企業・小規模事業者の支援
- 東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出
- 「映画のまち調布」の推進

出典：「調布市基本計画（令和元年（2019）年度～令和4年（2022）年度調布市）調布市」

